

令和2年度

第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時： 令和2年9月30日（水）

13：30～15：30

場 所： 群馬県市町村会館 502研修室

次 第

1 開会

2 議事

(1) 木材の需給動向について

- ① 木材の需給、価格等の動向
- ② 関東局における国有林材の供給状況

(2) 国有林材の供給調整について（審議）

(3) その他

3 閉会

令和2年度 第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県林業木材産業課 木材産業担当 課長補佐	川上 晴代
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	田中 幸夫
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
関東森林管理局長	上大田 光成
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
供給計画係	濱砂 俊介

令和2年度 第2回関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和2年9月30日(水)

群馬県前橋市【群馬県市町村会館 5階 502研修室】

2 議題

- (1) 木材の需要動向について
- (2) 国有林材の供給調整について
- (3) その他

3 検討結果

需要動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現在取り組んでいる国有林材の供給調整を継続するとともに、「立木販売の新規物件の一部について延期」を、現段階で解除すべきではないものの、今後、解除する場合は、川中での原木の在庫状況や落札率、川下での製品の動きや在庫状況等の需要動向を注視しながら、地域毎に柔軟に対応していく必要がある。

4 概要(状況報告等)

○ 長雨や猛暑により原木は大幅に不足していることから購入のオファーも多い。在庫量は製材の操業にも関わる(又は「影響するほど」)ほど不足している。

スギヒノキ板造作材用及びヒノキ構造材用の原木を中心に大幅に値上がりしている。コロナ禍の影響から原木の大幅な増産に躊躇が見られる。

○ 原木の入荷が少ないことから販売量も少ない。7月～9月の取扱量については、前年対比で7月は約68%、8月は約140%、9月は約75%となっている。

製品の動きは6月まで鈍かったが、7月から9月までは平年までには至らないが動きが戻ってきた。製品については、10月以降のプレカットの動きがないことから、厳しい運営になる見通しである。

○ 8月の原木の入荷量は、前年同月と比較し2割弱減少している。一部の森林組合では、材価が安いことから、皆伐を控え搬出間伐に切り替えて実施している。

長雨の影響により出材が減少したことから、原木価格は8月に入り若干ではあるが戻ってきた。

コロナ禍において新しい生活様式や働き方の変化により、住宅の増改築・リフォームや地方への移住等に関心が寄せられていることから、これを契機に、国産材の需要拡大につなげていきたい。

○ 夏に減少した原木入荷は回復していない。原木市場、製材工場も原木は少なく土場はガラあきの状態。

5月の連休にハウスメーカーにおけるセールス(イベント等)が開催できなかった

ことから、住宅着工の受注が減少したが、ここに来て見通しは前年並又はプラスになるとの見方になってきており、住宅着工数の回復のきざしが見えてきた。

ホームセンター向けの販売やアメリカ向けのフェンス材の販売が順調。今、国産材が外材に対して主導権を握る最後の機会と捉えている。

今年度を実施した国有林材の供給調整については、樹材種によっては、9,000円台から13,000円台まで持ち直したことから、非常に効果があったと考えており、現在の相場を考慮すると、供給調整の取組については解除宣言を出すことを検討していただきたい。

- 合板会社は、原木の受入れを制限している。構造用合板はプレカット工場毎でバラツキはあるが通常時の80～90%の稼働となっている。  
販売価格は下落してきたが8月に入り価格は落ち着き、底値の脱出感がある。  
今後、分譲住宅系、非住宅等の仕事も増え始めてきていることから、これから年末にかけて上向きとなる見通しである。
- 運営する当流通センターの原木取扱量は、国有林の委託販売が主力であり全体入荷量は対前年度比で91%となっている。  
原木価格は3月から下落傾向であったが、8月以降は回復してきた。落札率についても4月後半から急激に低下（6割程度）したが、8月からは、やや復調（9割程度）してきた。  
市場の安定化を図る上でも国有林材の安定的な供給が必要であり、供給調整対策を実施する場合は、地域の実情を勘案し、適切に行われることを要望したい。
- 原木の入荷量が少なく、需要に応じた原木の供給ができない状況。  
森林組合では、生産調整を行っていたが、原木は逼迫しており、原木の出荷依頼を行っていることから、今後は、供給量が増加する見通しである。
- 7月から原木が出材され始めてきた。チップ材もシステム材も速やかに搬出されていく状態であり、材は不足している。原木価格は下げ止まりの状況。  
ふくしま森林再生事業の入札が行われ、国有林立木販売入札も10月に行われる予定である。  
また、民有林においては、下刈作業が終了すれば、随時、間伐を始めるので出材が増加する見通しである。
- 大型工場では原木が不足している。業者の手持ち不足感から、全般に価格は値上がりしている。  
特にヒノキ中目・土台材やスギ3m小径材、3.65mの中目材は引き合いが強い。